

マスクで迎える春



94

季節にはそれぞれの「風物詩」がある。なにを風物詩と感ずるかは人それぞれだが、春のお彼岸の頃に私を感じる風物詩は「選抜高校野球大会」、「高校入試の合格発表」、「桜の花見」などである。残念なが

ら、今春の私の風物詩は姿を消したり、風景が大きく変わったりしている。いずれも新型コロナウイルスのためである。「春の甲子園」として国民的人気の第92回選抜高校野球大会は、戦争による中断を除いて大会史上初めて中止となった。開会式で、勢ぞろいした選手が一斉に前進する光景に「春の足

音」を感じていた。静岡県から出場が決まっていた加藤学園(沼津市)にとっては春夏通じて初の「甲子園」だった。「夏がある」と涙をこらえる選手に、かける言葉が見つからない。高校入試の合格者発表では合格者番号の掲示が中止された。例年、合格者が発表される掲示板の前で抱き合ったり喜び女子生徒や思い切りジャンプする男子生徒のはじける若さに春の到来を感じる人も多い。

高校入試は、ほとんどの中学生にとって「人生の方向」にかかわる最初の関門だ。それだけに掲示板に自分の名前を見つけたときの感激は、一生忘れられないだろう。今年は、それぞれの出身中学の教室でマスク姿の先生からマスク姿で合格通知を受け取った。

そうか、「マスク姿」は今春の風物詩かもしれない。卒業式などの式典や外出する際のマスク姿がめっきり増えた。品不足で「転売」が禁止されたが、大量のマスクをネット販売して県議会で問責決議を受けた県議もいた。うっとうしい春に、各地で桜開花の便り。「不要不急」の外出や「花見宴会」の自粛要請の中で、さて今年の「花見」はどんな楽しみ方があるのやら。マスクをしながら、あれこれ考えている。

(前静岡県監査委員・富永久雄)

広場の遊びもマスク姿 静岡市・全日写連・中村明弘さん撮影

